

授業科目	保育実践研究Ⅲ		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	高橋寛、高桑秀郎、花田嘉雄、白崎直季、城山萌々、木村重子、密城吉夫						
ナンバリング	E52S169	開講時期	2年次前期 (集中)	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	—		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1) 理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2) 専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1) 基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2) 実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3) 学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	<p>将来の幼児教育者（保育者）として社会に出たら即戦力となるように、経験を積み、多くの初対面の幼児や保護者が喜ぶ「遊び・遊び場」を企画・運営し、その利用者たちとのコミュニケーションの有効な手段として、音楽や身体表現を活用できるようになることを目指す。少人数のグループによる発表や、それに対する教員、学生たちからの相互発信の評価や、幼児や保護者たちからの評価をもとに、フィードバックが自身の成長の糧となることに気付く。</p> <p>また地元メディア（山形新聞・山形放送）主催の子育て応援イベント「すこやか2024」への遊び場の企画・運営に学生が主体的に関わることで、少子化時代における貴重な保育体験（例年2日間で2万人の家族連れが来場する）をし、子どもに主体的な発散の場を提供することにより、地域連携・貢献を実践し、地域の課題を解決する方法を模索し発見し学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら「子どもの遊びに関連する企画」を立て実践することにより、企画・運営する能力を培う。 ・初対面の幼児同士の遊び方を知り、また彼らとその保護者への関わり方を体験し、学ぶ。 ・学外の大規模なイベントの舞台での「ショウタイムの発表」を体験し、表現者として成長する。 ・幼児の活動の実際を、体験を通して理解し、学ぶ。 ・子育て応援イベント「すこやか2022」への遊び場の企画・運営で学生が中心的役割を果たすことで、地域の課題を認識し、その解決方法を体験的に学ぶ。 ・「フィードバック能力」(3)「実践中に瞬時に判断し、修正や改善をすることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	授業全体の内容についての講義とグループ・ミーティング				
		内容	授業の目的と実践が、自分たちの成長に有効であることを理解する。				
	授業時間外学修	予習：	シラバスを熟読する。 幼児教育者（保育者）として、幼児や保護者にとってどのような存在でありたいかを、確認しておく。				
		復習：	授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 参加意識を高め、「子どもの遊び」について1年次で学んだ多くの経験や知識を、確認し、見直しておく。				
第2回	テーマ	音楽的活動（歌う、踊る）の実践法					
	内容	1年次で学んだ音楽的活動（歌う、踊る）の、その良さを再確認する。					

	回		現代の子どもに必要な遊びは何かを考え、企画する。
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や義民店を整理する。 音楽的活動（歌う、踊る）に不可欠な心身の要素について再確認する。	
第3回	テーマ		美術（遊具の素材の研究）
	内容		遊具に適した素材を探し、研究する。
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 日常生活の身近なもので、遊びに使えるような素材を探してみる。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 非日常的な物からも、遊具の素材に適したものを探してみる。	
第4回	テーマ		身体表現（ごっこ遊び）の実践法
	内容		幼児の「ごっこ遊び」を疑似体験し、その面白さを確認する。
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 初対面の幼児同士での遊び方をイメージしてみる。	
第5回	テーマ		舞台での発表会の企画方法とグループ別ミーティング
	内容		行事に伴う発表会を企画する方法をグループ毎に模索し、相互発表・評価する。
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 フィードバックを受け、他のグループの企画からも学ぶ。	
第6回	テーマ		幼児の遊びの考察（遊具等の制作）①
	内容		企画に相応しい様々な遊具を考案し制作する。
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 遊具の安全性についても確認しておく。	
第7回	テーマ		幼児の遊びの考察（遊具等の制作）②
	内容		企画に相応しい様々な遊具を考案し制作する。
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 幼児が遊具をどう扱うであろうか、シミュレーションしてみる。	
第8回	テーマ		幼児の遊びの考察（遊具等の制作）③
	内容		企画に相応しい様々な遊具を考案し制作する
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。	

		<p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。</p> <p>別会場へ移動・搬入する際の、遊具の取り扱いについても考えておく。</p>
第9回	テーマ	ショウタイムの発表へ向けての打ち合わせ①
	内容	1年次に学んだ音楽表現方法を復習し、グループ別にショウタイムを創る。
第10回	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。</p> <p>1年次に学習した関連する内容を見直しておく。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。</p> <p>初対面の幼児・保護者が観客であることをイメージしてみる。</p>
	テーマ	ショウタイムの発表へ向けての打ち合わせ②
第11回	内容	1年次に学んだ音楽表現方法を復習し、グループ別にショウタイムを創る。
	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。</p> <p>手遊びや歌、人間オーケストラ等の要素も加える。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。</p> <p>グループ毎に内容を吟味しておく。</p>
第12回	テーマ	実践（学外のイベント会場にて）①
	内容	初対面の幼児や保護者が多数利用する会場で「遊び・遊び場」を企画・運営する。
第13回	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。</p> <p>遊具などを分割して、学外のイベント会場へ移設する。</p> <p>復習： 辞意船内容を振り返り、要点や疑問点、改善点などを整理する。</p> <p>改善点は速やかに実施し、次回への備えとする。</p>
	テーマ	実践（学外のイベント会場にて）②
第14回	内容	<p>地元メディア主催の子育て応援イベント「すこやか 2020」における遊び場の企画・運営に主体的に参加し、各日約1万人の家族連れをもてなし、子どもに主体的な発散の場を提供することにより、その保育実践が大きな地域連携・貢献となることを体験・認識する。併せて、地域の課題を解決する方法を模索し、発見し体験的に学ぶ。</p> <p>初対面の幼児や保護者が多数利用する会場で「遊び・遊び場」を企画・運営する。</p>
	授業時間外学修	<p>予習： 前回の実践内容を反芻する。</p> <p>前回から改善された遊具を、利用者の視点から再点検しておく。</p> <p>復習： 実践内容を振り返り、要点や疑問点、改善点などを整理する。</p> <p>自分たちの企画・運営力や、アナログなコミュニケーション能力がうまく機能した場面を記憶・記録し、成長の糧とする。</p>
第15回	テーマ	ショウタイムの発表の実践と実際（学外のイベント会場にて）①
	内容	<p>地元メディア主催の子育て応援イベント「すこやか 2022」における遊び場の企画・運営に主体的に参加し、各日約1万人の家族連れをもてなし、子どもに主体的な発散の場を提供することにより、その保育実践が大きな地域連携・貢献となることを体験・認識する。併せて、地域の課題を解決する方法を模索し、発見し体験的に学ぶ。</p> <p>企画したショウタイムを初対面の幼児・保護者に披露し、フィードバックを受ける。</p>
第16回	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。</p> <p>前述の9～10回目の授業での打ち合わせを復習しておく。</p> <p>復習： 実践内容を振り返り、要点や疑問点、改善点を整理する。</p>

			フィードバックを受けての改善点を、理解し、善処する。
第14回	テーマ	ショウタイムの発表の実践と実際（学外のイベント会場にて）②	
	内容	企画したショウタイムを初対面の幼児・保護者に披露し、フィードバックを受ける。	
	授業時間外学修	予習： 前回の実践内容を反芻する。 改善点を活かし、マン・ウオッチングして初対面の聴衆の特性をつかみ、演劇的な要素も加えてみる。 復習： 実践内容を振り返り、要点や疑問点、改善点を整理する。 様々なフィードバックを受けて、新たな企画・発表のヒントとしていく。	
第15回	テーマ	まとめ（レポート等による合評会）	
	内容	イベント会場での利用者・観客からの評価等を受けて「遊び・遊び場」企画への糧とする。	
	授業時間外学修	予習： 実践内容を振り返り、反芻する。 全体の実践記録に目を通しておく 復習： 合評会での、教員や学生同士の相互発信による評価を受け入れる。 その上で、要点や疑問点、改善点を整理し、より良い「遊び・遊び場」を創るヒントとしていく。	
	第16回	まとめと振り返りのレポート提出	
教科書・テキスト	こどもの歌ベストテン（ドレミ出版）ほか 1年次に履修した科目の教科書を、必要に応じて活用する。		
参考書・参考資料等	1年次に履修した科目の中から、該当する資料を必要に応じて活用する。		
成績評価の方法・基準	レポートや毎回の演習の様子やレポートの内容により、幼児教育者としての企画・実践力を育てる領域の理解度（20%）、専門的技能習得度（20%）、「フィードバック能力」（3）獲得の程度（30%）、授業参加度（15%）、技能習得の努力度（15%）で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートについては、コメント等を加え返却し、指導する		
授業時間外学修	予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、事業計画で示された内容を実施する。 テキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（1時間） 教員と学生の相互評価の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（1時間）		
備考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員たちは、幼児教育の現場での表現活動に理解が深く、この授業を各々2～11年担当していて、遊び場作りの企画には経験が豊富である。豊富な経験を活かして具体的な事例も含めた授業を行う。		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 高橋：月曜日 12時25分～12時50分 高桑：水曜日 12時25分～12時50分 花田：水曜日 12時25分～12時50分 白崎：水曜日 12時25分～12時50分 城山：（授業時にアナウンスを行う。） 木村：（授業時にアナウンスを行う。） その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		